

# I 戦争体験記録

田島 滋さん，禮子さん夫妻の戦争体験記

宮下 清さん，岡田 保子さん兄妹の戦争体験記

対談 深堀 輝行さん，千葉 孝子さんの被爆体験



この証言は、本市人権推進課及び生涯学習課が、田島滋さんと妻禮子さんから聞き取った戦争体験を文章にしたものです。

## 田島 滋さん、禮子さん夫妻の戦争体験記

滋さんは19歳の時に宮川町で、妻の禮子さんは大阪市で空襲を体験されました。

— お生まれは？

滋 大正14年、1925年です。

— 誕生日をお聞きしてもいいですか？

滋 8月7日です。ここが焼けたのが8月5日の晩から6日になっていたかもしれません。ヒロシマに原爆が落ちたのが、8月6日ですね。

— 誕生日のほんとに前日だったんですね。

滋 20歳になる直前ですね。

— 当時、学校と言ったら…

滋 旧制の高等学校ですね。あの頃はね、勤労働員<sup>\*1</sup>でもう学校なんかみんな行っていませんでした。

— 学生で戦争に行った人もいるのですか？

滋 理科系の方は、徴兵<sup>\*2</sup>延期になるんですけども、文科系の方は、そうではありませんでした。昭和19年より前は満20歳で徴兵検査を受けていましたが、昭和19年から19歳になり、昭和20年は2月頃に早められました。僕の知っている人で3月頃にもう召集令状<sup>\*3</sup>がきたという人もいます。

— 滋さんは芦屋が空襲を受けた昭和20年5月から8月頃はどこに？

滋 僕は昭和19年の暮れから20年の初め頃に病気をしまして、しばらく休んでたんですよ。我々のクラスは、昭和20年の3月に学年末試験を受けて、4月1日から勤労働員で尼崎にある古河電工という会社の工場に行くことになっていました。動員に行く前に身体検査がありまして、「お前はアカン」と言われて、動員には行けなかったんで、家に帰って療養していたんです。

— その当時はどういった身体検査を？

滋 聴診・触診と血圧・血沈の測定、レントゲン撮影です。当時は結核が多かったですからね。結核の人がおるとうつりますからね。兵隊にとられたけ

ども、即日帰郷と言って胸の悪い人は帰されたんです。

— 帰されたら入院とか療養するんですか？

滋 まあ入院する人もいるし、自宅で療養する人もいるし。あの頃は薬も何にもない時代ですからね。結核いうたら不治の病で、結局は安静にして治していく。死んだ人も沢山いました。

— 古河電工ではどんな作業をしていたんですか？

滋 どんな作業やってたのかな。僕は行ってないから…。

禮子 私と主人は5年違うけれど、とにかく人手がなかったから女学校でも上級生たちはみんな木造のプロペラを作りに行ったりしてました。大阪でしたけどね。

滋 神戸の県庁のそばにあった兵庫県立第一神戸高等女学校（現：兵庫県立神戸高等学校）でも学校の中でやってたようですね。

禮子 学校の中でもしてました。私なんかラジオの真空管の部品をまっすぐにしたりする仕事を教室でしました。

滋 まあ、いわゆる現場作業ですね。当時は今と違って、みんな手作業ですからね。

— 禮子様は当時15歳くらいでいらっしやったんですね？

禮子 そうそう。終戦の時は15歳だったね。中学校の3年生からみんな勤労働員に行っていました。

滋 その前の年（昭和19年）は、中学生は勤労働員には行っていなかったんですよ。戦争が激しくなって、どんどん工員さんが兵隊に取られるでしょ。そうすると工場が動かなくなってしまうから中学生も行くようになったんです。

— 昭和20年の終戦の年くらいから？

滋 昭和19年の2学期くらいからかなあ。僕らは20年の4月からですけどね。僕らより1年上の方は19年の秋ごろから行ってましたね。2つ年上の方は、ちゃんと学校は行ってました。そのかわり3月の卒業を、どんどん短くして9月に卒業させたのです。

— 勤労働員は、兵隊さんみたいに厳しかったんですか？

滋 そんなに厳しくはなかったようです。みんな工場の寮に入れられるんですよ。寮に入って、決められた時間勤務をして、帰ってきたら寮でゴロゴロしていました。工場勤務の方は、労務加配米が支給されてはいましたが、それでもいつも腹をへらしていた…というようなことですね。

— 指導する人はいたんですか？

滋 よく分からないけれど、いたはずですよ。危険な作業をする現場で、しかも素人が作業するのだから当然でしょう。

— 滋さんは戦争中ここにおられたんですか？

滋 うちはずっとここです。

— ここからずっと神戸高校まで通っていたんですか？

滋 通っていました。

— 当時、防空壕<sup>\*4</sup>は作られていたんですか？

滋 防空壕ありましたねえ。度々ある空襲の時、防空壕の中にいたんです。

— 防空壕って自分たちで作るんですか？

滋 全部自分です。

— いつごろ作られたか覚えています？

滋 戦争が始まった時だったかなあ。

— その頃には、作れっという話になったんですか？

滋 命令はないです。庭がある家は庭に穴を掘って潜れるような形に作っていましたね。

家が焼けてダンと落ちてきたりして防空壕で死んだ方もおられますけども、なるべくそんなことがないように作っていました。

— 滋さんのお宅も、庭に作られていたんですか？

滋 そうです。

— その頃は、食べ物はどうなさっていたんですか？ 配給<sup>\*5</sup>になっていたと思いますが。

滋 あの頃のことで一番印象に残っているのは、お米はあまり無かったということです。その代りに満州から運ばれてきた大豆を食べていました。あとは大豆から大豆油を取ったそのカスとか。それから赤い実の高梁（コーリヤン）<sup>\*6</sup>ね。

禮子 お米の格好をした外側が赤い。

滋 満州の人が常食にしていたとのことですよ。

禮子 お米の配給っていつから始まった？

滋 はっきり覚えてないけど、昭和16年だったかな。1日の配給が一人二合三勺<sup>にごうさんしゃく</sup>でした。日本人は、あの頃ほとんどおかずを食べないで、お米ばかりを食べてたんですよ。これは一部の金持ちを除いて、貧乏だからとか金持ちだからとかは関係ないんです。茶碗に5～6杯ご飯を食べるのが当たり前だったんです。その頃はまだ、神戸などでは今と同じようにレストランが営業しており、芦屋でもパン、うどん、そばを売っていました。米だけが不足していたので、配給米には今でいうインディカ米も入っていました。それが、私の記憶では昭和18年頃から店がどんどん閉店し、食べ物を売っている店はほとんどなくなり、甘いものといえば干しバナナくらいのものでした。昭

和19年には米は2合1勺に減りましたが、まだなんとかやっていたようでした。

昭和20年になると、いよいよ足りなくなつて。しかし、戦後の21年、22年頃よりまだましでした。

— それだけ主食でいっぱい食べていたお米が配給になったら本当にひもじくなるんじゃないですか？

滋 なんで配給にしたかって言ったら、米が足らんでしょ。そしたら金持ちが買占めてしまうから。

— 当時も買占めがあったんですか？

滋 お金のある人がみんなもってってしまったらえらいことになる。それで売ったらいかんと全部政府が買い上げて、まずお米の値段を決めるんですよ。それをみんなに配ったんです。そうしないと貧乏な人は米が食べられませんからね。

— 昭和16年に真珠湾攻撃<sup>\*7</sup>で戦争が始まりますが、その時のことは覚えておられますか？

滋 ええ、覚えてますよ。朝飯を食べて、これから学校へ行こうとしていた時、ラジオをつけてたらいきなり臨時ニュースを申し上げますって。真珠湾という話はまだそのニュースでは出てなかった。西太平洋において、米英両軍と戦闘状態…うちの親父は軍需関係の仕事をしていて東京で勤めてましたけど、たまたま家に帰って来ていて、いよいよやりましたね、仕方がないなあという話をしていました。

— 学校ではどうだったんですか？

滋 学校では、先生はみんなヤッター！ヤッター！と言って興奮してました。授業も無かったですね。

— 今、戦争になると、例えば死ぬかもしれないとか怖いとかいうことになると思うんですが、当時は自分が死ぬかもしれないという気持ちはありましたか？

滋 あの頃はね、僕らみたいな子どもは、お国のために死ぬのは当たり前だし、そういう風に育てられた。確かにお父さんが、戦争なんかしたらいかんとか仲良くせんといかんとか言っておられた方もいたようだが、そんな人はごくわずかで、大部分の人は日本の国を守らないといかん。

— お国のために死ぬのは当たり前という教育で何の疑問もなかった訳ですね。

禮子 そうそう。みんなが当たり前とっていました。

— 戦時中は、いろんところで日本は強い、どんどん勝っていつているというニュースばかり載せて、劣勢の事実はあまり載せなかったのでは？

滋 確かに、新聞は、そういう傾向です。

— その時は、みんなが日本は勝っていると思っていたのですか？

滋 それは、新聞を読まない人だと思う。よく読んでいたら確実に負けていることが書いてあるんですよ。確かに敵の戦艦何隻撃沈したとか、航空母艦何隻、飛行機何機撃墜したとかは大きく出ます。しかし読んでいったら結局負けているんですよ。

— 昭和17年のミッドウェー海戦<sup>\*8</sup>でも新聞読んだら分かったのですか？

滋 分かりました。ミッドウェー海戦の時は、すぐわかりました。詳細は少し違っているかもしれませんが、あの時の大本営発表<sup>\*9</sup>では、戦果—敵空母1隻撃沈、1隻大破（曳航中に沈没）、我が方の損害—空母1隻沈没、2隻大破、1隻中破、となっていました。戦争が始まった翌年で、私が中学4年生のときです。ただし日本がつぶれるなんて思ってもいませんでした。

— 大破、中破というのはどのような状態だったのでしょうか？

滋 大破とは沈まないけれど自力で航行はできない。多分日本の基地まで帰還することはできなかったでしょう。中破とはそれに次ぐ大損害で修理ができるかどうかわからない状態です。

— 日本がつぶれるとは思っていなかったということですが、その後はどうでしたか？

滋 卒業した19年の頃からは、大本営は本当のことを言わなくなりました。国民の士気にかかわるような発表は避けたのでしょう。ただ、アメリカは膨大な工業力で、いくら沈めてもすぐ補給するというようなことが書いてありました。

— 学校ではどうだったのですか？ 学校の子ども同士の会話では？

滋 あんまり言いませんねえ。戦争の話はほとんどしません。話は今の高校生のような、思春期の子どものような話題。内容は異なりますが、スポーツ、小説、歴史、先生の悪口その他もろもろです。

— 初めて芦屋に空襲があったのは昭和20年の5月11日ですね。その頃には、新聞を読んでほしい劣勢かなあというのは分かっていたらっしゃったのでしょうか、実際に芦屋にも空襲があった時はどうでしたか？

滋 まだあの頃は体調が悪くあまり記憶にありませんが、国鉄の駅辺りに小型の爆弾を落としたのですが、このあたりではあまり騒ぎはなかった模様で、見に行った人の話も聞いていません。でもあの頃はすでに東京、大阪など大都市は空襲で焼け野原になっていました。米軍は日本を降伏させるには、軍を攻めるよりも市街地を焼き払って大勢の民間人を殺し厭戦気分<sup>えんせん</sup>を高めた方がよいとの考えで、都市の民家を焼夷弾<sup>\*10</sup>で攻撃することに

しました。日本の家はほとんど木造なので火をつければ簡単に燃えるし、広い範囲にやればたくさんの人が死ぬという効果を狙っていたのです。

— 実際に5月までにも空襲警報は、何回もあったのですか？

滋 ありました。19年6月のサイパン陥落<sup>\*11</sup>後、飛行場ができてB29が配備され、そろそろ日本へ来だしたんです。だけど、あんまり多数の飛行機はまだ来られなかったんです。昭和20年硫黄島<sup>\*12</sup>が玉砕されて、飛行場ができてから大々的に始まった。ものすごくたくさん来てました。空襲は主に夜中だから警戒警報は鳴るし、空襲警報は鳴るし、寝てる暇はなかったです。

— 最後に空襲に遭ったのは阪神大空襲の8月5日ですか？ こちらのおうちも焼けたんですか？

滋 焼けました。

— その時はどうでした？ 空襲警報が鳴って…

滋 あれはね、予め米軍機が、次どこへ爆弾、焼夷弾を落とすとか警告してくるんですよ。伝单<sup>\*13</sup>、ビラ撒きよるんですよ。

— 8月5日の夕方ですか？

滋 5日の夕方、大分元気になっていたから家庭菜園の手入れをしていたら、いどころが来て今晚空襲があるよと知っているんですよ。そんな話して帰ったんです。そしたらその晩、ちょうど寝ていたら、空襲警報が鳴ったんです。

— 防空壕に逃げられたのですか？

滋 まあ、始めはどうなるかなあと見てましたけどね。その頃になるとすごく低く飛んで上からボンボン落とすんです。向かいの家は焼けてないんですけど、西隣にあった三軒長屋の一軒だけ焼けて西側の二軒は焼けてないんです。

— 延焼しなかったんですね？

滋 まあ消したんでしょうね。ちょうど風が西から東へ吹いていたので、うちの敷地の中に焼夷弾が100何発あった。

禮子 開いてないのもあったね。

滋 「モロトフのパン籠<sup>\*14</sup>」って言うんですが、傘があってその下の1m程の長さの鉄の板の本体に焼夷弾が何十個か縛られていて、それを落とすと、傘についている小さなプロペラが回ってパンと破裂するんです。破裂した途端に焼夷弾が個々に飛び散るんです。ある程度の高さから落とせば広範囲に広がり損害を与えることができるんですが、低いところから落とすからそのままドンと落ちた。だから富田碎花の大きな家の2階にドスンと落ちて固まりがそのまま破裂して、火花がドーンと上がった。僕はその場にはいな



かったけど、あそこはすごかったよって言っていましたよ。

— 焼夷弾をよく知らないのですが…

滋 トンと落ちたら、ポーンとふたが開いて中に入っている油脂に火がついて燃える。1発だけでも小さな木造の日本家屋やったら焼けてしまうくらいの威力のあるものです。

— 本来だったら、空でバラバラになるのに、そのまま束ねたまま落ちてきた…？

禮子 束ねたまま開かないで落ちてきたのもありました。

滋 庭にも傘が落ちてきたけど、その傘はまだ生きてるんですよ、すぐ落ちるから。くるくる回ってパンと破裂する。それを回してて手がとんだ人も何人かいましたよ。

— 空襲が始まった後はどうされたんですか？ 逃げられたのですか？

滋 始めは消そうと思ったんですけどね、こらアカンと思って逃げることとなりました。

— どこに逃げられたんですか？

滋 東側の空き地。そこは何にもなくて戦前に今の富田碎花旧居に、谷崎潤一郎が住んでいたんですが、空き地にサーカスとか女相撲とか芝居なんか来てムシロ掛けの小屋で興業するので、谷崎潤一郎がそれがやかましくてやかましくて仕事が出来ないと書いてるんです。

— 今の打出保育所のところですか？

滋 打出保育所から阪神電車の土手まで。あそこは何にもなかったです。完全な空き地だったんです。当時は食糧難だから勝手に自分で畑を作っていましたね。

— 家は全焼ですか？

滋 家は全焼。あっという間でした。土蔵があって土蔵は焼けなかったですねえ。直撃ではなかったから焼けなかったんですよ。

— この辺は焼け野原じゃなく、まだら状に焼けたのですか？

滋 そうですね。うちの隣は二軒だけ残った。道を隔てた向こう側は全部残った。

— 焼け出された後はどうされたんですか？

滋 はじめは、伝単を見て「空襲があるよ」って知らせてくれた呉川のいとこのところにしばらく厄介になりました。蔵は焼けて物凄く熱くなっているから、早くに入口を開けると中が燃えてしまうんです。しばらくして、親父が東京から帰って来たので、それから開けて、ここに住もうと蔵で寝てたんです。僕らは防空壕で寝たりしたこともある。お隣にいた人が、防空壕に泊まらせてくれって来てね、一緒に寝たことがあります。

—— ご飯はどうしていたのですか？

滋 混乱しているとはいえ、非常食をみんな持っていますので、町内の方とか焼けてない方がおにぎりを持ってきてくれました。そういう助け合いのおにぎりはホントおいしかった。

—— 震災直後みたいな感じ。

滋 そう。でもね、役所も何も持ってないから震災の時みたいに、役所からいろんな物資が出てくるなんてことはないですね。

禮子 あのころ、何食べてしのいだんだろうと思うね。

滋 震災の時は、そばとおにぎりをくれたり、いろいろあったけど、そんなのなし。

禮子 みんながね、持ってないから。

滋 ただね、空襲を受けた時は、臨時配給っていうのがあるんです。食料を少しくれるんですよ。ビールなんかもくれるんです。そういうことは、あったけども、とてもじゃないけど、お腹がいっぱいになるような事にはならないですね。

—— 空襲では、ご家族は皆さん無事でしたか？

滋 ええ。おふくろと私と妹と弟2人の5人、富田家が碎花夫妻とお手伝いさんの3人。

—— ご近所で亡くなられた方もおられたんですか？

滋 あの時は誰も亡くなられてないと思います。うちの弟がちょっとケガしましたが。

—— 焼け跡なんかで、亡くなられた方が横たわっているみたいな風景は？

滋 この辺は東京みたいにザーとやられてないから。

—— さまよい歩くということがなかった？

滋 ないです。だから簡単に逃げられた。ちょうど富田碎花の家から北へ阪神の土手まで、東は宮川まで、あそこは何にもない広場だったんですよ。あの広場に焼夷弾はなかったような気がするんです。あそこに落としてくれたらよかったのに。

—— それは意識して、広場は狙わずに家をピンポイントにしたのでしょうか？

滋 そこまでは分かりませんね。阪神の宮川の鉄橋のところに日本の飛行機が墜落していた。

—— それは空襲の時ですか？

滋 空襲の時ですね。後で見たのでどういうふうに墜落したか全然知らない。あと、若宮町も燃えてませんでしたね。ここで止まっているんです。ここから東の打出町などはほとんど燃えてない。北側の宮塚町も燃えてませんからね。

落ちてないところは、なんにも被害がないから空襲知らないでしょうね。  
— そんなもんなんですね。被害が大きかったのはJR芦屋のあたりなんですか？

滋 8月の時は、駅のあたりは焼けていません。茶屋之町を除いて、業平町、上宮川町、船戸町、大原町などほとんど被害はありません。

— 本当にご経験になったのは8月の阪神大空襲の時だけなんですね。

滋 そうです。運の悪い人は何度も空襲に遭っているらしいですが。

— そのあとの再建はどうされたんですか？

滋 その蔵に住んでて、たまたま知っている人が四畳半の小屋みたいなものを持ってきてくれたんです。その部屋は、おとこしさん<sup>\*15</sup>が居たらしいです。

— おとこしさん？

禮子 女中さんって女のお手伝いさんと他に男のお手伝いさんもいたの、お庭の手入れをする人。

— 住み込みですか？

禮子 そうです。

滋 その人が住んでいた小屋みたいなものがあるんです。それを持ってきてくれて、ここにでも住みなはれと。ちょっと置くだけだから。

禮子 屋根がトタンやったって言ってたね。

滋 それはトタンじゃない。その後、トタン屋根で建物と蔵との間をつないだ。雨が降ったらやかましゅうてね。話にならん。その4畳半におふくるなんか寝て、ぼくらは蔵に寝て。

— その直後の15日の終戦では、玉音放送<sup>\*16</sup>を聞かれました？

滋 僕は聞いてない。妹は学校が工場になってたから学校でね。泣きながら帰ってきて、どうやったって聞いたら、こういうことやったと。

— 負けたと…それを聞かれたときは、どうでした？ 負けたと聞かされたときはどんなお気持ちでした？

滋 僕個人的な話ですけど、日本はもうあかんなあと思っていましたよ。偉そうなこと言っているけど、絶対アカン、負けるとしていました。ただ負けるのは良いけど、ひよっとしたら本土決戦かと思っていました。覚悟はしていた。それくらいひどかった。

— 実際に負けたとお聞きになったときは、どうでしたか？

禮子 これからは空襲がないということにホッとしたね。毎晩、起こされるのが嫌だったもの。

滋 最後のほうになったら、若いから厚かましいですよ。病気で<sup>ひとつきふたつき</sup>一月二月のころは非常に神経質やったけど、7月くらいになってきたらね、だんだん

慣れてくるんですね。富田碎花の家には、本がたくさんあって積んであるから、それがもう熱くなって、水や土なんかかけても消えない。一週間から10日くらい燃えてくすぶっていました。夜になっても燃えているから、近所のお婆さんが、「これ、敵機の目標になる」って言いに来ました。

—— 上から見たら明りに見えるから。

禮子 そうそう。みんな明りを消してるでしょ。真っ暗にしてるから。

滋 向こうから見たら赤い…そんな事言うてたからね。

—— その時は富田碎花夫妻はどこに避難されてたんですか？

滋 呉川町のいとこのところ。

—— その頃は、妹さんはそれぞれ皆さん学校へ行ったりされてる訳ですよ。そうすると朝、別れて、例えばまた空襲が来れば、いつ離れ離れになるかわからないみたいな、そんな悲壮感はなかったですか？

滋 そりゃあったんでしょけどね。

禮子 みんなが、そうだから。いつどう別れるか。

—— それが普通だったんですね。

滋 われわれ、今の時代に考えたら感覚がおかしかった。

—— 禮子様は、その当時どうしておられたんですか？

禮子 私は大阪なんです。結婚して大阪からこっちに来ました。主人とは年が5つ違うから、私が女学校1年生の時は中学5年生ですね。私たちも、女学校の3年生からその動員というのがあって、軍需工場みたいなところへ行かされるのね。学校の中で真空管の古い、なんかわからない部品を持ってきて、私たちがまっすぐにしたりしてましたね。上級生は、プロペラ工場へ出かけて行って、旋盤で手を切ったという話も聞いたこともあるしね。大阪はしょっちゅう空襲があったから、昼間でも防空頭巾<sup>\*17</sup>を必ず持って、黒い十字の救急袋に包帯や赤チン<sup>\*18</sup>やらいっぱい入れて、それをいつも女学生みんな通学するときから持って行ってましたね。授業はなくて、廊下でずっと並んで、バケツリレーをしたり、訓練受けてたり…あんな竹槍の訓練、今思うとおかしい。

滋 竹槍をやってたらしいね。僕らやったことないけど。でも、町会でもね、日曜日は防火訓練をやってね。年取った方で、ちょっと人格者みたいな方がおられまして、その方が隊長さんになって。

—— 防火訓練というのはバケツリレーみたいな？ バケツリレーで火を消そうとしてたんですね。

滋 あの頃は、防火水槽<sup>\*19</sup>と言うのがあったでしょ。

禮子 大阪は隣の家まで焼けて、隣と前全面が焼けて、風向きが変わったから私の家の方へは類焼しなくてね。井戸があったもんですから大きな防火水槽

に水をどんどん入れて、それを用水桶<sup>\*20</sup>で2階からバァーと全部に掛けて。すぐ隣じゃないけど、火の粉どころでなく火の大きな塊が飛んでくる。だから、類焼しないように自分の家にも水を掛けて。

滋 時代劇なんかでこっち側は壊せとやってたでしょ。ああいう事をすればいいんでしょうけどね、それやるためには人手がいます。あの頃ね、女の人ばかりで大人の男の人って言ったら僕一人だけだったから潰して火を消すなんてとてもじゃないけど出来ないんです。

禮子 少し人手があったら焼けないで済んだかもしれないって言ってたもんね。

滋 でも、芦屋市は、だいたい各戸に井戸があったんです。水道は出てたんで、一応水はあったんです。

— 近くで出征というのか、兵隊に行くのは見られたことはありますか？

滋 この隣に住んでおられた方が、行かれましたね。

— 空襲で学校の友達を亡くしたとか、そんなご経験はおありなんですか？

滋 僕らの仲間では空襲で死んだ人はいませんね。芦屋の場合は比較的人的被害は少ないんですよ。東京都とか大阪市とは違って。ただ、うちの兄貴が戦死している。

— いくつ違いのお兄様でいらっしゃいました？

滋 4つ。20年の3月に戦死しました。学徒出陣<sup>\*21</sup>でね。皆さん、ほんとに真面目ですよ。お国のために絶対戦わなきゃいかんと。ある人は、さっき話した身体検査の時に結核で即日帰郷で帰されたんですが、今度は海軍に志望して、海軍で戦死した人もいました。一億一心<sup>\*22</sup>とかって言ってましたけど、人間ってそうなるんでしょうね。

— お兄様は、戦死されたという通知がきたのですか？

滋 あれが来たのは昭和21年やったかな。

— 戦争が終わってから…

滋 だいたい、みんなそうですよ。日中戦争<sup>\*23</sup>の頃は早かったけど。

— それは戦死しましたという通知一つだけですか？

滋 そう。遺骨のない人は、中は空で箱だけが返ってくるんです。僕の小学校の同級生で2人戦死してます。僕らより上になると、だいが戦死している。

— 弟としてどんなお気持ちでしたか？ それからご両親は？

滋 そりやお袋なんかは…。言ってもしょうがないからあまり言わなかったけど。それよりも、姉が病気で死んでるし、その方が身近やからね。

禮子 言っている間無かったね。みんな食べさすのに大変だし。よくほんとにみんなを育てて頑張ったと思う。昔の人は。

— 今の若い人たちに、その当時の事を戦争を経験してきた者としてどう伝

えればよいと思いますか？

滋 難しいですよ、昔のものの考え方を伝えるのは。特に最近は。今は自由にもものが言えて、そして比較的豊かに暮らせて。それが権利で当たり前やと。お国のために、天皇陛下のために尽くすなんておおよそ荒唐無稽<sup>こうとうむけい</sup>※24で、昔の事を話しても分かってもらうのは難しくなっていますね。

— 戦後、教育が民主主義というのに変わって、教科書全部黒塗りになったり、ガラッと変わりましたね。その当時はどうお感じになってましたか？

滋 皆一生懸命頑張ってきたのに残念だと言う人もいましたが、なんでも進駐軍の命令だとか、昨日まで一億火の玉だと言っていた人が、私はもともと戦争に反対だったとか。まあ負け方が悪すぎたから軍を恨むのは仕方がないのでしょうが。

— 原爆についてどう思われますか？

滋 原子爆弾を落とすということはね、人道上許されない事です。絶対許されない事です。

— 貴重なお話をありがとうございました。

※1 勤労働員（きんろうどういん）…第2次世界大戦中に国家の緊急の措置として、軍需産業、食糧増産などに国民を計画的、強制的に従事させたこと。特に中等学校以上の生徒、学生を中心に実施した。

※2 徴兵（ちょうへい）…国家が国民を徴集して一定期間兵役につかせること。

※3 召集令状（しょうしゅうれいじょう）…在郷軍人や国民兵などを召集する命令文。

※4 防空壕（ぼうくうごう）…空襲の際に避難するために地中に掘られた穴。

※5 配給（はいきゅう）…物資の供給を政府など公的機関が行う制度。

※6 高粱（コーリャン）…現在でいうモロコシの中国での古称。戦時中、慢性的な米不足のため、米の代用主食として用いられたものの一つ。

※7 真珠湾攻撃（しんじゅわんこうげき）…1941（昭和16）年12月8日未明、ハワイ州オアフ島の真珠湾にあったアメリカ海軍の太平洋艦隊や基地に対して、日本海軍が行った航空機、潜航艇による攻撃。

※8 ミッドウェー海戦（みっどうえーかいせん）…第2次世界大戦中の1942（昭和17）年6月5日～7日の北太平洋ハワイ諸島北西にあるミッドウェー島付近での海戦。同島攻略を目指す日本軍をアメリカ軍が迎え撃つ形で発生。日本海軍は航空母艦4隻とその艦載機多数を一挙に喪失する大損害を被り、この戦争における主導権を失った。

※9 大本営発表（だいほんえいはっぴょう）…太平洋戦争において大本営（戦時中に設置された日本軍の最高統帥機関）が行った戦況の公式発表。

- ※10 焼夷弾（しょういだん）…家屋・物資の焼き払いや火災による人員殺傷を目的とした、焼夷剤が入った爆弾。
- ※11 サイパン陥落（さいぱんかんらく）…1944（昭和 19）年 6 月～7 月に行われた、アメリカ軍と日本軍のマリアナ諸島サイパン島での戦闘。アメリカ軍の総攻撃により日本軍全滅。サイパン島陥落により、飛行場に拡張・改修工事が行われ、B29 も離着陸ができるようになった。
- ※12 硫黄島玉砕（いおうとうぎょくさい）…1945（昭和 20）年 2 月、アメリカ軍が小笠原諸島の硫黄島で日本軍を強襲。同年 3 月、日本軍壊滅。
- ※13 伝単（でんたん）…戦時において敵国の民間人、兵士の戦意喪失を目的として配布する宣伝謀略用の印刷物（ビラ）
- ※14 モロトフのパン籠（もろとふのぱんかご）…日本においては、太平洋戦争時、市街地空襲に使われたアメリカ軍の E46 収束焼夷弾を指す。形状がパン籠を連想させる。
- ※15 おとこしさん…男の奉公人。
- ※16 玉音放送（ぎょくおんほうそう）…天皇の肉声を放送すること。
- ※17 防空頭巾（ぼうくうずきん）…戦時中、空襲の際の落下物から頭部を守るためにかぶった綿入れの頭巾。
- ※18 赤チン（あかちん）…コウ素（ヨード）の殺菌作用を利用した殺菌薬・消毒液。ヨードチンキともいう。1970 年代以前、家庭用消毒剤として広く流布していた。
- ※19 防火水槽（ぼうかすいそう）…消火用の水を貯めておく水槽で、焼夷弾の投下に備える目的で設置されたもの。
- ※20 用水桶（ようすいおけ）…火災に備えて水を貯めておく桶。
- ※21 学徒出陣（がくとしゅつじん）…第 2 次世界大戦末期の兵力不足を補うため、20 歳以上の文科系学生を徴兵し、出征させたこと。
- ※22 一億一心（いちおくいっしん）…戦時中のスローガンで、すべての日本人が団結すること。
- ※23 日中戦争（にっちゅうせんそう）…1937（昭和 12）年 7 月から 1945（昭和 20）年 8 月まで中華民国と大日本帝国の間で行われた戦争。
- ※24 荒唐無稽（こうとうむけい）…根拠がなく、現実味が感じられないこと。

この証言は、本市人権推進課及び生涯学習課が宮下清さん、岡田保子さん兄妹から聞き取った戦争体験を文章にしたものです。

### 宮下 清さん、岡田 保子さん兄妹の戦争体験記

宮下さん（兄）と岡田さん（妹）は、戦争当時、若宮町に住んでおられ、芦屋で空襲を体験されました。

— 終戦の時はおいくつでしたか？

岡田 私は、昭和12年2月23日に生まれましたので、終戦の時は小学3年生で8歳でした。

— 当時はどこに住んでおられたのですか？

岡田 若宮町に住んでいました。打出の駅のすぐ南側です。

— 小学校3年生だと、学童疎開はありましたか？

岡田 ありましたよ。うちの親戚は近くばかりで縁故疎開ができないので、学校が決めた学童疎開に行かせると母が言ったんですよ。

— それはいつごろですか？

岡田 3年生になってからだと思います。昭和20年の4月か5月頃か。宮川国民学校は、岡山の方に行くはずだったと思います。下着やら色々なものに名前を書いて行李てうりに持っていくものを用意して、さあ行くという時になって、私が嫌やと言って泣いて行かなかったんです。行っていたら空襲に遭ってないんですけど。

— 芦屋市史には、今の岡山県高梁市の方に行ったと書かれています。

岡田 高梁。そうですか。自分には行ってないからよく覚えていません。行くと言って用意もちゃんとしてもらってたんですけど。

— 出発のところまでは行かれたんですか？

岡田 行っていません。家を出ていくときに嫌やと。

— それは別れるのが寂しかったからですか？

岡田 末っ子だったからね。それで泣いて行かなくて空襲に遭ったんです。

— 他にも行かなかった人はいましたか？

岡田 8月の夏休み中だったから誰が行かなかったのかは分かりません。夏休み前、学校へ行っているときは、空襲警報やと言ってじきに帰りました。そ



の当時給食があったんです、コッペパンの。警報が鳴ったら、係の者がすぐにパンを取りに行って、それを1個ずつもらって家へ飛んで帰りました。

— その当時給食があったんですね？

岡田 コッペパンだけの給食。うちは米はあったけど、パンなんか珍しかったから、パンだけもらって帰ったことをよく覚えています。

— その頃は食べ物がないので、常にお腹が空いてなかったですか？

岡田 うちは農家だったので、贅沢はしないけど、サツマイモなんかを植えててね。そういう思いは、幸いしたことはないです。

— お米とかは配給ですよ。

宮下 そうです。一人一日に二合三勺<sup>にごうさんしゃく</sup>。身体をよく使うような人やったら一日四合、五合くらい食べていました。副食がないから、梅干しや鮭をのせてね。

— もう少し上の世代の方だったら働いていたのですか？

岡田 兄は、学徒動員<sup>\*2</sup>。勉強どころではなくて会社で働いていました。身体を訓練するため行軍<sup>\*3</sup>というものがあるって、弁当を持ってたくさん歩いていました。兄は、西宮商業に通っていたんだけど、朝早く行軍の日と行って行っていたね。

宮下 戦時中の中学校は、半分軍隊と同じで、毎日行くときはゲートル<sup>\*4</sup>を巻いて学校に通っていた。遠足なんかなくて、その代り行軍。私等は1・2年生だったから手ぶらやったけど、4・5年生いうたら本当に三八銃<sup>\*5</sup>を担いでね。各中学校に武器庫があって、4・5年生になったら三八銃を担いで兵隊と同じような軍事教練<sup>\*6</sup>があったからね。

— 小学生の子たちは普通に授業を受けていたんですか？

岡田 そうです。それで警報がでたら、すぐに帰りました。今の芦屋高校あたりから若宮町まで歩いて帰りましたね。

— 帰りに怖い思いをしたことは？

岡田 それはないです。ただ、私が子どもながらに怖いと思ったのは、浜の海水浴場で近所の同級生の子が機銃掃射<sup>\*7</sup>で殺されたこと。昭和20年の夏だったと思います。もう一つは母から、浜の方の畑から帰ってくる途中に飛行機に追われ撃たれそうになって、屋根のある門の中に入って助かったということです。一人を狙うような飛行機があったんですね。

宮下 当時、グラマン<sup>\*8</sup>という戦闘機があって、その戦闘機が人を狙う。

岡田 当時は、海水浴場にはなっていなかったかもしれないけど、ここは浜があったしプールなんかもないし、夏だったらみんな海へ行っていましたね。

— 空襲の事は覚えていますか？

岡田 8月5日やね。空襲で防空壕に入っていたら外にいた父が「出て来い」と言うから出てみると、座敷や洗濯物が燃えていて、その中を母に手をつないでもらって浜の畑まで逃げたね。若宮町は、細い路地だったけど、その路地の家がまだどこも焼けていなかったの、うまく逃げることができた。焼夷弾の火が点々と燃えていたけど、母に手をつながれて火をよけるようにして浜の方まで逃げました。

岡田 兄ちゃんは通ったら、人が倒れていたって言っていたね。

宮下 倒れていたね、今の宮川小学校の北の角のところかな。

岡田 兄ちゃん、空襲に備えて車力<sup>\*9</sup>に積んで逃げる用意しとったでしょ。

宮下 そんな余裕はなかった。一面火の海やから。油脂焼夷弾で火のついた塊が散る訳。北側の前栽<sup>\*10</sup>から座敷を見たら、畳、ふすま、天井、点々と油脂焼夷弾から油のついたやつがへばりついてそれが全部燃えていた。うちの屋敷は、100坪ほどあったけど、次に家を建てる時、焼夷弾が30個くらい出てきた。

岡田 みな爆発したやつね。不発弾じゃないね。

— 防空壕は、家の敷地につくっていたのですか？

宮下 たいていの家は、みんな南側に前栽があって、防空壕を掘っていました。

岡田 父が焼夷弾が落ちたのを見て、出て来いと言って、出た時にはもう…。もう少し逃げるのが遅れていたり、前の家が燃えていたら生きていないです。早かったから逃げることができたんです。

— ずっと防空壕の中に留まっているわけではないんですね？

岡田 防空壕の中にずっとおったら生きてないね。

宮下 あかんな、蒸し焼きやね。

岡田 まわりが全部焼けているので。

宮下 普通、火事になっても柱とか天井とか残っているでしょ。何も残っていない。あの時分は汲み取りのトイレやから塩気があるのかな。トイレの柱だけが半分焼け残って立っているくらいで他は何にもない。瓦も普通は黒の瓦だけど、みんな真っ赤になって、瀬戸物はそのままだ残っているけど、ガラスのコップなんかは団子のように塊になっていました。それくらい火力がきつかった。



空襲の火災で溶けたガラス瓶  
(芦屋市教育委員会 所蔵)

— 警報が鳴ったら防空壕には入るけども、爆撃を受けた後は、もうすぐそこから出て逃げ出さないといけないんですね。

岡田 落ちたらね。父親が出て来いと言ってくれて、周りの逃げる道が何も

燃えていなかったから、逃げることができた。

宮下 あれがものの20分遅れていたら駄目だったね。

岡田 遅かったら逃げる道がなかったね。

— 空襲の時、爆撃機は見えましたが？

宮下 ぐぐっと低く飛んでいるのが見えましたよ。

— ほかの方もやっぱりそんな事をおっしゃいますね、低かったと。

宮下 今でも思い出すけど、昼の空襲の時は、偵察機は遠く高いところを飛んでいて、飛行機雲ができていたけど、空襲で家が焼けた時はほんとに低く飛んでいました。

— 音はどうでしたか？

宮下 焼夷弾を落としてくるときはシュシュシュシューという音がしていました。見ている間に、火のついた焼夷剤がバラバラと降ってきて、天井やふすまが燃えだしたので、とっさにバケツを持って座敷に行って、水をかけたけど、こりゃあ、あかんわって思って。夏で開けっ放しやったからね。

— 空襲警報は、何回も鳴るんですか？

宮下 警報は1回鳴ったらそれっきり。

— 通っておられた宮川小学校は焼けましたか？

宮下 宮川小学校は、鉄筋だから完全には焼けなかった。

— 8月5日に空襲を受けていますけど、それまでも空襲を受けるかもしれないという恐怖はありましたか？

岡田 あまりありませんでした。実際に爆弾にあってないから怖さはなかった。

— お兄さんはどうでしたか？ 7学年上だったらだいぶ大人になっていらっしゃると思いますが。

宮下 その頃は、怖いとかは全然思わなかった。1年、2年は勉強して、3年から終戦までは学徒動員で工員と同じだった。

— 学徒動員は厳しかったんですか？

宮下 当時は全国すべてやからそれが普通。工場は24時間動いているから、3班に分かれて、私たち学生は8時から14時まで仕事、2班は14時から21時まで。夜中はなかった。西宮の浜に川崎製鉄特殊鋼工場というのがあって、鉄がみな集められてそれを溶かして、鋳物みたいなものを作っていた。当時は、みな回収されて窓枠とか鉄瓶とか火鉢とかみんな出せと言われていた。

岡田 2階にあった窓枠とか、鉄類は全部ね。神戸の瓦せんべいを焼く道具まで取られてた。

— 学校に軍人はいたんですか？

宮下 中学に教練を教える先生、将校のだいたい中尉くらいで退役した人が2人くらいいた。教練は1週間土曜まであって、そのうち1回は体操、他に4～5回は教練をする。どこの中学でも1・2年生は兵隊の分列行進の練習、3年生は銃剣術、4・5年生になったら払い下げの三八銃を持って掃除の仕方とか撃ち方を教えていたと思います。5年生になったら本当に実弾射撃。本当の軍隊の下って感じだね。

— 教官がいて本当の軍隊のようですね。

宮下 この辺は、姫路連帯区から現役の将校が来ていて、配属将校って言うてたけどね、その人が1週間に1回か2週間に1回かな、教練をどのように教えているかと、教練の仕方を調べる。指導やね。

— 殴られたりするとも？

宮下 それはしょっちゅう。自分は殴られなくても殴られる人がいない日はないね。悪いことをしたら連帯責任。クラス40人くらいが毎日殴られる。

— 宮下さんも殴られたんですか？ 怖くはなかったですか。

宮下 それが当たり前。

— 将来は兵隊とか軍人になろうと思っていたんですか？

宮下 願書は出していましたよ。昭和17年に小学校を卒業して18、19年の2年間は教練、勉強はあったけど、19年4月頃からは勉強どころではなくなって、皆学徒動員で工場へ。人がいなかったからね。予科練<sup>\*11</sup>に行ったのは2人くらいかな。予科練とか陸軍少年学校、陸軍飛行兵とか色々なパンフレットがあって、皆飛行機に乗りたいて言っていました。飛行機はなかったけど。

— 宮下さんよりちょっと上の世代の方は戦地へ行かれてたのでは？

宮下 私のいところは3人戦死。1人は日中戦争になってすぐ招集されて戦死。南京陥落のまだ前やったかな。あの時分は勝ち戦<sup>いざ</sup>やったからちゃんと遺骨も帰って来たけど…。あとはニューギニアで1人戦死した。それと1人(母の姉の子)は、潜水艦でシンガポールを出たというだけで後は分からなくなった。

— その頃は皆、戦場に行けば相手を殺す気持ちを持っていたのですか？

宮下 考えていなかったけど、その頃は鬼畜米英と言っていたからね。学校に行っている間ずっと戦争だったからね。昭和12年(1937年)に日中戦争が始まって太平洋戦争までずっと戦争ばかり。新聞なども戦争のことばかり。マレー沖海戦、アメリカの軍艦2隻沈めた、万歳とかね。みんながそんな感じだった。

— 昭和16(1941)年12月8日の戦争が始まった時のことは覚えていますか？

宮下 覚えています。小学校6年生でした。学校へ行ったらアメリカと戦争が始まったから日本が勝つように武運長久<sup>※12</sup>を祈らないかと言って、みんなと並んで打出の天神さんまで行った。6年生だけだったかもしれないけど。

—— 戦争に負けて何か生活は変わりましたか？

宮下 家が焼けて何もありませんでした。小屋に住んでいました。

岡田 家は廃材を利用して建て直しました。

—— 戦争に負けてどう思われましたか？

宮下 初めてジープを見た時は、もう日本はダメなんだなと思いました。

岡田 旧国道でチョコを頂戴とジープの人（アメリカ人）に言ったらくれました。下の兄がシラミをもらってきて家じゅうにシラミがわきました。頭にも付きましたが、進駐軍が頭からDDT<sup>※13</sup>を撒いたらいなくなりました。

—— 青春時代が、戦争中でしたが、今の戦争のない平和な状況をどのように感じますか？

岡田 今は、幸せやと思います。

—— もし、戦争がなかったら、なりたいものになれたとか、幸せだったのにと感じたことはありますか？

岡田 それは感じたことはありません。

宮下 生まれた時から戦争だったから、それが当たり前でした。男だったから、大きくなったら戦争に行くものだと思っていたんです。今の子どもたちは幸せやと思います。

—— 戦争が終わった時はどう思われましたか？

岡田 よかったと思いました。

宮下 やっと終わったのかという感じでした。子どもだったから何で終わったのか分からなかったけど。

岡田 もう戦争は絶対に嫌ですね。それは叫びたい。経験している者が言っていないといけない。

宮下 そのとおりやね。今は経験している人が少なくなっているから。

—— 貴重なお話をありがとうございました。

※1 行李（こうり）…竹や柳、籐などで編んで作られた葛籠。衣類や身の回りの品の収納あるいは旅行用の荷物入れなどに用いられた。

※2 学徒動員（がくとどういん）…第2次世界大戦中に、国内の労働力不足を補うため、中等学校以上の生徒や学生が軍需産業や食糧増産に動員されたこと。

※3 行軍（こうぐん）…軍隊等が隊列を組んで長距離を行進・移動すること。

- ※4 ゲートル…ズボンの裾を押さえて足首から膝までを覆うもの。歩行を楽にする。
- ※5 三八銃（三八式歩兵銃：さんぱち（ぱち）しきほへいじゅう）…1900年中期に開発・採用された大日本帝国陸軍の小銃。
- ※6 軍事教練（ぐんじきょうれん）…大正15年から昭和20年まで、中等程度以上の男子学校に陸軍現役将校を配属して行った軍事に関する訓練。
- ※7 機銃掃射（きじゅうそうしゃ）…航空機などが装備した機関銃や機関砲を使用して、地上または海上の敵をなぎ払うように射撃すること。
- ※8 グラマン…アメリカの航空機会社グラマン社が製造した第二次世界大戦中の海軍主力戦闘機。
- ※9 車力（しゃりき）…荷物を運搬する車。
- ※10 前栽（せんざい）…草木を植えた庭、または植え込み。
- ※11 予科練（よかれん）…「海軍予科飛行練習生」及びその制度。14歳半から17歳までの少年を全国から試験で選抜し、搭乗員としての基礎訓練をすること。
- ※12 武運長久（ぶうんちょうきゅう）…戦いや戦場での幸運がいつまでも続くこと。
- ※13 DDT…強力な殺虫剤の一種。戦後、日本に入ってきたアメリカ軍によりシラミ撲滅のために、身体が真っ白になるほどかけられた。

## 対談 深堀 輝行さん、千葉 孝子さんの被爆体験

深堀さんは長崎生まれ、小学校5年生の時に被爆され、千葉さんは、広島生まれ、3歳の時に被爆されました。

— 絵を描いたのはいつ頃ですか？

深堀 絵を描いたのは40年ほど前です。

閃光とほぼ同時にこの防空壕に飛び込んで助かったんです。

千葉 入り口から閃光が見えたということは、この防空壕の入り口が爆心地を向いていたということですね。

深堀 この入り口は、爆心地から45度くらいの方向です。

千葉 ということは、防空壕に飛び込む前に、飛行機が見えたということですね。

深堀 飛行機は入り口の前から見えませんでした。B29<sup>\*</sup>は、あの当時、小学生でも聞いて知っていましたから、あれがB29かと。銀色に光る一点でした。

千葉 私の3人の兄は、B29の音が聞こえると言って、家の中へ駆け込んできたんですよ。4年生と3年生と1年生でした。

深堀 私と同じくらいですね。（この絵の）大きな木が入り口に倒れて来たんですよ。

千葉 木が倒れているということは、この絵は、原爆直後のものですか？

深堀 そうです。直後の様子を戦後20年くらい経った頃に思い出しながら描いたものです。現在はどうなっているのかなと思っているんですけど、浦上天主堂から少し歩いたらこの防空壕に辿り着くんですよ。防空壕の奥行は2mしかないんです。

千葉 防空壕の中に飛ばされたんですか。

深堀 自分から飛び込んだんです。入り口に座っていた叔父さんは、爆風で胸を打たれて、苦しがつて、1週間後に亡くなりました。

千葉 爆風がきていると思うんですけど、閃光は？

深堀 閃光は、はっきり覚えています。

千葉 閃光は浴びなかったんですか。もし、まともに浴びていたら火傷をしていますよね。

深堀 死んでますよ。



（昭和50年頃に原爆投下時の防空壕の入口付近を描いた絵）

千葉 奥に入ったから助かったんですね。

深堀 入った瞬間ですね。防空壕の前に木があったから、衝撃を止めてくれたんです。前には大きな家もあったんですが、これは、バタンと倒れてすごい勢いで燃え出したんです。

千葉 では、その家が遮蔽してくれたんですね。

深堀 そうです。家や木が。

千葉 すごく運が良かったということですね。

深堀 本当に運が良かったと思います。

— この防空壕は、山のほうにあったんですか？

深堀 防空壕は、爆心地から1kmないくらいの場所にありました。私の実家が爆心地から0.5kmで、そこから約200m離れた所です。入り口の前にはいたら、たとえ木や大きな家があっても助からなかったです。

千葉 B29を発見して飛び込んでいるんですね。

深堀 空襲警報が解除されていたので、山の上に陸軍の兵隊がいたんですよ。我々は防空壕の前で遊んでいました。途端にカンカンカンと警報が鳴って防空壕に飛び込んだ瞬間、ピカッ、ドカンとすごい爆風でした。

千葉 B29を見て兵隊さんがカンカンカンと音を鳴らしているんですね。

深堀 そうです。空襲警報が出されたままであったら、警戒をして、防空壕に避難していたはずだし、多くの命が助かっていたと思います。

千葉 広島の場合は、もう少し早く解除になっていたから、皆、仕事に行ったり学徒動員に行ったりしていたんです。広島の場合、落とすことを予定していましたから、8時15分が戸外に一番人が多くいる時間帯であることを確認して投下しているんですね。長崎の場合は、小倉に落とす予定だったのがダメになって、次は眼鏡橋の近くになって、そこもダメになって、結局、昼に近い時間帯になったんです。

深堀 長崎という所は、三菱系列の会社が多く、三菱兵器製作所、三菱電機、三菱造船、この3つで活性化してきた町ですが、当時はずっとありました。私の兄（長男）は三菱兵器製作所で鉄砲や玉などを作っていました。原爆が投下された日の夕方、父が放射能が飛び散っているのに、実家に行ってみると言うんですよ。防空壕の上から見るとまだ燃えていて、皆が行くなと止めたのですが。

— 原爆が投下されていることは知らなかったんですか？

千葉 3日前に広島に投下されているのに、知らされていなかったんですね。

深堀 父が、3日前に広島に原爆が投下された時、『新型爆弾やて』と言っているのを子どもながらに聞いていました。しかし、自分がこんな目にあっても、それが原爆だと思わなかったんです。



千葉 広島の場合は、ましてやそんなこと全く知りませんから、母は家の裏庭に直撃弾が落ちたくらいにしか思っていなかった。外に出れば、誰かが助けに来てくれると思っていました。

深堀 そう思いますよね。我々は、自分たちだけやられたと思ったんですよ。3時間くらい経って、防空壕の前にあった大きな石の上に乗って、実家や近所が燃えるのを見ていました。どうしようもなかったし、行くのも怖かった。

— お父様は実家のほうに行かれたそうですが、後遺症などはなかったのですか？

深堀 もちろん被爆しました。あと食べ物もなかったし、着る物もなくパンツ一枚だけだった。夏だから寒くはなかったけど、のどが渇くのと食べる物がない。近所の畑にかぼちゃが転がっていて、もちろん被爆しているかぼちゃですけど食べないと仕方がない。焼け跡から材木を取ってきて、かぼちゃを炊いて食べたり、放射能がかかっていたけど井戸水を汲んできてお茶にしたりしました。

父と母は原爆から半年ほどで亡くなりました。3人の兄も原爆で亡くなりました。三菱兵器製作所で働いていた長男は、実家の池の中で倒れていました。おそらく水が欲しくて池に入ったのでしょうが、池の中で死んでいました。それを父が夕方実家へ戻った時見つけたんです。原爆で半分生焼けの状態だったが、名前が入った指輪をつけていたので、父は自分の息子だというのが分かったんです。爆風と閃光を受け、やっと実家に帰ってきたのに…。そのことを父は防空壕に戻ってきた時、泣きながら話してくれました。二番目の兄は旧制中学の報国隊<sup>※2</sup>に行っていて、三番目の兄は遊びに行っていて結局帰って来ないままでどうなったか分からなかった。母親が泣いていたことをよく覚えています。私たちは放射能が残っている中、実家へ戻った父のことも心配していましたが、残念ながら被爆していました。

(当日は) 夕方4時頃に雨が降ってきたんです。

千葉 黒い雨。

深堀 そうです。黒い雨。油みたいでまともな雨でないんですよ。手に乗せてみたらやっぱり黒いんですよ。今でも何だったのか分かりません。

千葉 放射能汚染の塵。長崎の場合は雨が広範囲に降っているんですよ。

深堀 それから、夕方6時か7時頃、飛行機がまた飛んできたんですよ。B29かどうか知りませんが、ビラを撒いて行ったんです。白紙のビラに赤字で「これでも戦争をするのか。天皇陛下に戦争をやめるように言いなさい。」と書いてあったことをはっきりと覚えています。

千葉 長崎ではそのようなことがあったんですね。チラシは拾ったらあかん  
ということは聞いていました。

深堀 母親が絶対に拾ったらあかん大きな声で言っていたんですけど、一枚  
持っていました。

千葉 昨年、長崎に行った際、眼鏡橋の近くにも行きましたが、その時初めて  
最初の目標が眼鏡橋だったことを知りました。もし、そこに落ちていたら、  
もっと大勢の人が死んでいますね。

深堀 眼鏡橋のほうには工場はなく、商店街、百貨店がありました。住民の  
方も三菱関連の企業に勤務している人も大勢いたようです。今でこそ観光  
地として綺麗に整備されていますが。

千葉 私が常々言っているのは、原爆に遭いながら、今生きていることは非  
常にラッキーな偶然の積み重ねだということです。深堀さんの場合も防空  
壕に飛び込んでいなかったらどうなっていたか。

深堀 防空壕に飛び込んでいなかったら、確実に死んでいたと思います。私は  
ここにいません。

千葉 私も家の中にいて助かった。兄もB29の音を聞いて、庭から家の中へ  
飛び込んで助かった。原爆について語るようになってからいろいろ勉強して、  
戦争は、知れば知るほど残虐なことだと感じます。戦争でなければありえな  
いことです。だから戦争は絶対してはならないことです。

深堀 そうですね。日本は、ハワイの真珠湾を攻撃した。ハワイでも多くの人  
が死んでいます。それからずっと日本軍は敵をやっつけていると伝えたり、  
我が方の被害は軽微なりと放送していました。

千葉 広島に新型爆弾が落とされたが、被害は軽微であると言っていました  
ね。

深堀 ラジオでよく言っていましたね。ところが逆ですよ。日本はやられっ  
ぱなしでした。鉄と油がない日本、戦争は後退するのみです。

千葉 あの当時、理系の方は、勝てるわけない、負けることは分かっていた  
けど、それを言うと、国賊だ、非国民だと言われてしまう。

深堀 昭和19年9月からはペリリュー島<sup>\*3</sup>に多くの兵隊を集めたんですよ。  
そこでずいぶんと死んだんですよ。

千葉 兵隊もたくさん死にましたけど、戦いで亡くなった人よりも餓死で亡  
くなった人のほうが多いんですよ。

深堀 本当に考えられないことです。亡くなった親、兄弟、友人を思うと、  
太平洋戦争はなぜ起こったのかと究明せざるを得ない心境です。絶対に戦  
争はやってはいけません。

—— 貴重なお話をありがとうございました。

- ※1 B 2 9…第2次世界大戦中に登場した，ボーイング社が開発した米国の大型爆撃機。
- ※2 報国隊（ほうこくたい）…学校・職場ごとに，14歳以上40歳未満の男子と14歳以上25歳未満の独身女性を対象とした勤労報国隊が編成され，軍需工場，鉱山，農家などに動員された。
- ※3 ペリリュー島（ペリリゅうとう）…現在のパラオ共和国の島のひとつ。1944年9月から11月にかけて行われた日本軍守備隊とアメリカ軍の陸上戦闘により多くの方が戦死した（ペリリューの戦い）。



芦屋市平和モニュメント